

テキスト 出エジプト記 32章

## 〈イスラエルの偶像礼拝の罪〉

シナイにおいて十戒、契約の言葉を与えられ、主なる神に従順を誓った民は、早速背きました。モーセが山からなかなか下りて来ないため、民はモーセの兄アロンに訴えます。「我々に先立って進む神々を造ってください。エジプトから我々を導き上った、あのモーセがどうなったのかわからないからです」。「我々に先立つ神々」、それはモーセが山から下りてこない中で不安から求めた神々です。アロンは民に妻や息子、娘らが着けている金の耳輪をはずし、持って来るように言いました。すると、彼らは着けていた金の耳輪をはずし、持ってきました。それを受け取ったアロンは、若い雄牛の鑄造を造り言いました。「イスラエルよ、これこそ、あなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」と。それは、後に北イスラエル王国のヤロブアム一世がベテルとダンに金の雄牛の像を安置して言った言葉「見よ、イスラエルよ、これがあなたをエジプトから導き上ったあなたの神である」を暗示しています。

「彼らは次の朝早く起き、焼き尽くす献げ物をささげ、和解の献げ物を供えた。民は座って飲み食いし、立っては戯れた」と言われています。そこには、エジプトの奴隷の地から救い出してください、生けるまことを神を捨て、金の雄牛を神と崇め、その異教祭儀に興ずるイスラエルの不信仰の姿があります。彼らは、契約の法、十戒のみ言葉を畏れをもって聞いたばかりです。偶像礼拝が罪であることはよく知っていたに違いない。だが、彼らは、そしてアロンにしても、金の雄牛、偶像を造ることを止めようとしなかったのです。それはこのような像を媒介として、生ける霊なる神に触れることができる、そうでなければ生ける神に近づくことができないうかのようなのです。そこにあるのは世界とそこにあるものを手段とし、それをを用いて神に触れようとする汎神論的な考えです。第二戒、偶像礼拝の禁止は、このような考えに対する反対にほかなりません。

## 〈神の怒りとモーセの執り成し〉

このようなイスラエルの民の背信に対して、神は激しい怒りをもって言いました。「わたしはこの民を見てきたが、実に頑な民である。わたしは彼らを滅ぼし尽くす」と。頑な民という言葉は「うなじのこわい民」とも言われ、不従順な背きの民を表す象徴的な言葉です。

このような激しい神の御怒りに対して、モーセは激しく神に詰め寄って訴えました。①なぜ、ご自分の民に怒られるのか。②あなたがエジプトから救われた民ではないですか。③エジプト人に、あの神は悪意をもって滅ぼすために民を導き出したと言わせるのですか。④あなたの僕、アブラハム、イサク、イスラエルと結ばれた契約（創世記12:1-3, 17:1-8, 26:2-5, 28:13-15）を思い起こしてください、と。モーセは契約の主の真実に訴えました。こうして主は、民にくだすと言われた災いを思い直して下さったのです。

モーセは神の契約の言葉を記した、二枚の掟の板を持って山を降りました。すると金の雄牛を囲んで行われる異教祭儀に興じる民の歌が聞こえてきます。モーセは激しく怒って、契約の板を投げつけて、砕いてしまいました。また、雄牛の像を取って火で焼き、粉々に砕いて人々に飲ませました。神の契約が破棄され、その処罰が行われたのです。責任逃れをするアロンに対して、モーセは神の前に立って言いました。「この民は大きな罪を犯しました。今、もしも彼らの罪をお赦し下さるのであれば……。それがかなわなければ、このわたしをあなたが書き記された書（命の書）の中から消し去ってください」。民の為の、モーセの命をかけた執り成しです。

主イエス・キリストはモーセのような預言者と言われました（申命記18:15-22を参照）。わたしたちの一切の罪のためにご自身の命を十字架に献げて贖いとなって下さったのです。

（国方敏治）

テキスト 出エジプト記 32章  
参照カテキズム 子どもカテキズム 問45,46

### 〔単元のねらい〕

この聖書箇所は、神の選びの民であっても偶像礼拝の誘惑にさらされるのだという事実を語り示している。モーセの留守はイスラエルにとって信仰の試練であり、そこではみ言葉を待ち望む姿勢が試されることとなった。真の神礼拝はみ言葉にもとづく礼拝であることをもう一度確かめておきたい。

## 「ほんとうの礼拝」

先週は荒れ野を旅するイスラエルに、神さまが十戒を授けてくださったことを学びました。神さまは十戒を教え示してくださった後に、なおイスラエルが聞き従うべき数々のみ言葉をお語りになりました。ただし人々は神さまのみ声を直接聞くことをおそれ、み前から遠ざかったので、イスラエルのリーダーであったモーセひとりが神さまに近づき、神の山でそのみ教えを聞くことになりました。

神さまはみ言葉を語り終えられると、モーセに二枚の石の板を授けてくださいました。あの十の戒めをご自分の指で直接書き記された板です。神さまは十の戒めのみ声をもってお語りくださっただけではなく、文字にしてイスラエルにお渡しくださったのです。

ところで、そのようにモーセひとりがみ言葉を聞き、二枚の石の板をいただいてくることになりましたので、モーセはその間イスラエルの人々から離れることになりました。そのモーセの留守中に、ひとつの事件が起こったのです。

モーセの留守は長引きました。それで、人々はだんだん心細くなってきました。モーセが帰って来ないということは、神さまがもうわたしたちのことを忘れてしまわれたということではないだろうか。そして、これからはこの荒れ野の真ん中に放り出されて生きていかなければならないということではないだろうか。

そのように心配し始めたとき、イスラエルは神

さまが自分たちをエジプトの国、奴隷の苦しみから救い出してくださったことを忘れてしまいました。岩から飲み水を湧き出させ、天からマナを降らせて養ってくださった恵みも忘れてしまいました。また、聞いたばかりの十の戒めの恵みも忘れて忘れてしまいました。

そして、神さまが自分たちから離れてしまわれた以上、自分たちの手で自分たちの旅路を守ってくれる神をこしらえなければならぬと考えたのです。

人々はモーセの兄であるアロンに、どうかわたしたちのために神を造ってくださいと願いました。アロンは人々に、あなたがたが身につけている金の耳輪をはずして持ってきなさいと命じました。そして人々から集めた金の耳輪で金の雄牛の像を造って、これこそがあなたの神々だ、と言ったのです。祭壇が築かれ、人々は金の雄牛の前で飲み食いし、立っては戯れました。このようにして、イスラエルはまことの神さまと偽りの神とを取り換えてしまったのです。偽りの神にひれ伏してしまったのです。

十戒のひとつめの戒めと、ふたつめの戒めとをもう一度思い出してみましょう。

1. あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。
2. あなたはいかなる像も造ってはならない。

この世界にはさまざまな「像」があります。神さまは目に見えないお方ですから、見える絵や像

に仕立てられるはずはありません。けれども、人は神の像を造ります。それは罪のゆえです。罪によってまことの神さまを見る目がくもらされてしまっているために、人々は神を見えるかたちにしようとするのです。

けれどもそれらの像は、神さまが造られたものを神にすりかえているだけです。人間が「雄牛」を神にして、その前にひれ伏すというのは、おかしなことですね。それでも、それをおかしなことだと思わなくなるほどに、人間の霊の目はくもらされてしまったのです。

こうした像のことを「偶像」と言います。神さまは自分勝手な願いから偽りの神を造る人間のいとなみをお嫌いになり、またお裁きになります。神さまはまことの礼拝をお喜びになります。そしてわたしたちがまことの礼拝に生きることができるようのために、十戒を与えてくださったのです。

神さまの選びの民であるイスラエルでさえ、偶

像礼拝のあやまちを犯してしまいました。それがモーセの留守中に起こったことを心にとめたいのです。モーセが神の山からいただいてきた二枚の石の板、すなわち十戒のみ言葉こそが大切であったのです。神さまはみ言葉を忍耐して待つ信仰をイスラエルにお求めになりました。けれどもイスラエルは待ち切れなかったのです。

偶像は命を持ちませんから、言葉を語ることもできません。神さまは目には見えませんが、生ける神であられ、み言葉をもってわたしたち人間と交わりを持たれます。み言葉をもってご自分のことをはっきりと教え示してください。モーセの留守中に、金の雄牛の前で人々がなした礼拝は偽りの礼拝でした。み言葉が語られず、また聞かれない礼拝は、それがどんな礼拝であってもほんとうの礼拝ではありません。神さまのみ言葉が語られ、聞き従われる礼拝こそがほんとうの礼拝なのです。  
(木下裕也)

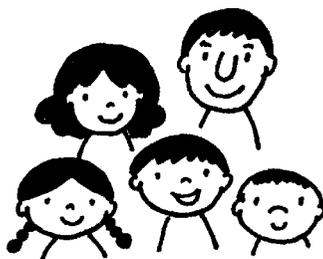
---

[今週の暗唱聖句] 出エジプト記 20章3節、4節 (前半)

あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

あなたはいかなる像も造ってはならない。

---



**〈ねらい〉**

私たちが、神さま以外のものを神さまのように扱うことを、神さまはとてもお嫌いになる、ということを知る。

※地域の子どもたちの中には、家庭に仏壇があり、親がそれに手をあわせる姿を普通に見ている、今日の話がつまづきになる子どももいるかもしれない。まことの神礼拝についてきちんと語りつつも、偶像礼拝の問題はデリケートに扱う必要があることを忘れずにいたい。

**〈展開例〉**

今日のお話には「偶像礼拝」という難しい言葉が出てきましたね。そんな難しいことは大人のすることですよ、なんて思っただけではいけません。偶像礼拝は私たちにもとても身近な、こわいことです。

モーセさんは、神さまのみことばを聞くために一人で神の山へ行っていました。その間、イスラエルのみんなは、はじめはちゃんとリーダーであるモーセさんの帰りを待っていました。しかし、何日待ってもモーセさんは戻ってきません。困ったイスラエルのみんなは、どうしたでしょう？

なんと、自分たちをエジプトから救ってくださった神さまのことを知らんぷりして、別の新し

い神を造ろう！ と言ったのです。そうしてみんなの手で造られたのが、金の子牛の像でした。（像は象ではないですよ。置物のようなものです）イスラエルのみんなは金ピカの子牛を見て大満足。その上、金の子牛を拝み、それに向かって礼拝を始めました。神さまは、そのようすをご覧になって、とても悲しまれたと思います。そして神さまはたいへんお怒りになりました。

今日のお話で、イスラエルのみんながしてしまった嘘の神さまを造り、それを拝んだ金の子牛の事件、みなさんは、この金の子牛の事件についてどう思いますか？ 「造り物の牛を拝むなんて、バカな話だなあ」、「私は金の牛なんて造ったことないから大丈夫だもん」、そんなふうに思うかな？ でも“金の子牛を造る”のがいけないこと、というわけではありません。本当の神さま以外の、他のものを拝んだり、大切にしたりすることが、してはいけないことであり、嘘の礼拝をささげることなのです。

神さまのみことばだけを大切にする礼拝をささげましょう。

**〈お祈り〉**

ただあなたのみことばにのみ聞き従い、本当の礼拝をささげることができるようになりますように。アーメン。



**〈ねらい〉**

神様が喜ばれる礼拝をささげよう。偶像礼拝の意味を知る。

**〈はじめに〉**

礼拝、分級を通して、子どもたちに毎週み言葉が語られています。この一週間の奉仕者の準備や祈りを主が用いてくださいます。奉仕者の尊い働きを通して、確実に次の世代へと、福音が受け継がれていることを感謝しましょう。主が今、目の前に置かれている愛する子どもたちを生涯導いてくださり、信仰を持って歩み、又その信仰が受け継がれていくために、今日の分級の時間も祝福してくださるよう祈りましょう。

**〈御言葉に聴きましょう〉**

- ①モーセさんが山に登って留守の間、人々はアロンさんに何を頼みましたか。(1節)
- ②アロンさんは人々に、何を持ってくるように言いましたか。(2節)
- ③金の牛を見たイスラエルの人々は、何と言いましたか。(4節)

**〈展開例〉**

モーセさんは、山に登って、神様といっしょに過ごしました。その間に神様はたくさんのお話をお話をモーセさんにしてくださいました。全て話し終わると、神様は、先週学んだ、十のいじめ、十戒を書いた二枚の石の板を、モーセさんにお渡しになりました。

モーセさんの帰りをずっと待っていたイスラエルの人々は、長い間モーセさんが皆のところに帰ってこないで、だんだんと心配になってきました。心配するだけでなく、またまた心の中に文句が出てき始めました。そして、ついに、人々

はアロンさんによってしまったのです。「モーセさんはもう帰ってきません。だから、私たちを導いてくれる神様を、アロンさんが造ってください！」こんな願いをしてしまったのです。アロンさんはどうしましたか？アロンさんはきっぱりと断りましたか？いいえ、アロンさんは「みんなが着けている金の耳輪を持ってきてください」と言って、みんなの間違ったお願いを引き受けしてしまったのです。アロンさんは、金を溶かして、金の子牛を造ってしまいました。

しばらくしてモーセさんが山から下りてきました。モーセさんはびっくりしました。なぜなら、人々が、金の子牛のまわりで、大声で歌ったり、踊ったり、騒いでいたからです。金の子牛を神様として拝んでいたからです。これを「偶像礼拝」と言います。モーセさんは激しく怒りました。そして、神様からいただいた二枚の石の板を地面に投げつけて、壊してしまいました。金の子牛も火の中に投げ込んで、粉々にして、人々飲む水の中に入れて、みんなに飲ませました。それから、「本当の神様に従う人は、私のところに集まりなさい」と言いました。そこには、金の子牛を礼拝しなかった、レビという部族がモーセさんの所に来ました。他にも自分たちがしたことが本当におかしく神様にごめんなさいと言えた人々も集まってきました。最後まで悔い改めなかった人々は神様によって滅ぼされてしまいました。

神様は、人の手で造られるものではありません。神様は私たちの目には見えませんが、御言葉を通して、私たちを守り、導き、育ててくださるお方です。神様は私たちをいつも見てくださっています。このことを信頼してこの神様を礼拝しましょう。

**〈お祈り〉**

神様、目に見えないあなたを信じる子どもにしてください。そしてあなたが喜ばれる礼拝をさせてください。アーメン。

## 〈ねらい〉

霊であり、目に見えない神様を、聖書の御言葉に従って、正しく礼拝をする。

## 〈ワーク〉

1. モーセさんが、しばらくシナイ山から（ ）来なかったので、イスラエルの人たちは、神様に（ ）と思い（ ）になった。
2. 岩から（ ）を出してもらったり、天から降ってくる（ ）をいただいていることを忘れ、また、もらったばかりの（ ）の言葉を忘れてしまいました。
3. そして、みんなから集めた（ ）の耳飾りで、（ ）の（ ）を造りました。
4. イスラエルの人たちは、その（ ）が、私たちを（ ）から導いた（ ）だと言って、それに向かって（ ）しました。それを見た神様は、非常に（ ）になりました。
5. 人の手で造った像のことを（ ）と言います。それを礼拝することを（ ）（ ）と言います。（ ）の神様を礼拝していることになります。

6. 本当の神様は（ ）ですから、目には（ ）ません。だから神様は、（ ）を非常に（ ）になります。
7. （ ）の（ ）を聞いて、それに従い、目には見えないけれども、（ ）ける（ ）の神様を正しく（ ）、礼拝しましょう。

## 〈祈り〉

神様、イスラエルの人たちは、金の子牛の像を造り、それに向かって偶像礼拝をしてしまいました。私たちは、目には見えませんが、聖書の御言葉に従って、正しく神様を礼拝することができますように。

## 〈答え〉

1. 降りて、見捨てられた、不安
2. 水、マナ、十戒
3. 金、金、子牛
4. 子牛、エジプト、神様、礼拝、お怒り
5. 偶像、偶像、礼拝、偽り
6. 霊、見え、偶像礼拝、お嫌い
7. 聖書、御言葉、生、真、信じ



## 〈ねらい〉

偶像礼拝を嫌われる神様を覚える。

## 〈展開例〉

①今日の箇所ではイスラエルは、自分達で金の子牛という「まがいモノの神」を造って、神様を怒らせる。人々が「まがいモノの神」を造りだした原因は何だろう？ それは「自分を導いてくれる存在が確認できない」という不安。人は自分を未来へと導く確かな手掛かりがないと不安になる。それは当然なこと。人は神様がいないと生きていけない者として創られたからだ。だが困ったことに人間は未来への確かな手掛かりを履き違える。墮落から芽生えた罪のせいだ。今回、イスラエルは不安にかられて、キラキラと輝いて、力強く見えて、快樂によって不安を忘れさせてくれる、そんな「神」を欲しがった。

Q. 皆はどうだろう？ 神様に従うことが人生の中心と教えられながらも、「そう言うが立派な仕事についてお金を稼がなくては。この世界はお金で動いているんだから。」「そう言うが、色々な能力を身につけなくては。この世界は強い者が勝ち上がるのだから。」「友達や恋人との楽しみを手に入れなくては。この世界は自分が楽しむためにあるのだから。」こんなふうに、自分の人生の確かな手掛かりをキラキラと輝いて見える「お金」や力強く見える「才能」、不安を忘れられる「快樂」に見出しはしないだろうか？

②もちろん「お金」も「才能」も「快い楽しみ」も神様がくれる恵みだ。でもそれは神様と一緒に生きることを味わうための恵みである。いかなれば神様との人生を喜ぶという目的のための手段だ。この手段が人生の目的、もしくは人生の確かな導きが変わるとき、君にとっての「神様」は造りモノのまがいモノにすり替わる。神

様は「わたしのほかに神があってはならない。」こう言って、自分達がひれ伏して従う人生の確かな導き手を人間が創作することを禁止された。

③「自分で神を造り出す」ことはなぜそれほどいけないのか？ ひとつは、人間は神様と親しく生きていくために存在しているのに、道理が成り立たなくなるから。だが、それだけじゃない。もっと神様を身近に思えばどれだけのことがわかるだろう。もし自分に世界のすべてを自由にできる力が在り、自分が身を投げ出して助け出した大切な人がいるとする。その相手は自分では生きていけない弱々しい相手だ。だから君がその相手に「私を信じろ！ 私はお前のことをこれからも絶対に守り抜く！」と誓ったとする。それなのに「いやあ、あなたでは物足りない。私はお金や自分の力を信じる。快樂に身を埋めていたほうが安心だ。」こんな返事が返ってきたら、どれだけ腹立たしく、悲しいか。その相手はどれほど愚かしいことか。誰でもわかる。

④イスラエルは神様の怒りを買った。しかし、神様は大切な者達を投げ捨てたままにしない。まがいモノの神ではなく、生きていてみんなを導く力ある本物の神は「私へと向きを変えるように」と何度も訴えかけられる。この訴えは礼拝の場で皆にも投げかけられている。私達の神様を見つめる目は弱い。それは一週間ももたないほどに。だから私達は週に一度、この場所で自分の神様を確認し力をもらうのだ。一週歩みの中で神様を見失うことがないように、この日、この心に神様の思いを刻みたい。

## 〈祈り〉

あなただけが私の神様です。アーメン。